

文化の仲間

京浜協同劇団と共に歩む文化の仲間 会報 No.64 2013年6月8日発行
川崎市幸区古市場 2-109 京浜協同劇団内 TEL 044-511-4951 郵便振替 00250-3-18369

大いなる家族～戦後川崎ものがたり

学ぶことが非常に多かった

川向 あゆみ

私が市民劇に参加した理由は、高校3年間やってきた演劇を、続けたかったからです。役を演じるにあたって大切なことは、目に見えるものであって、気持ちは二の次だと思っていました。けれど、3年生最後の公演に向けての練習で、その考えが変わりました。最後の発表ということで、演じる役について調べました。そして迎えた最初の立ち稽古。私は役として泣きました。一度も舞台上で泣くことはなかったので、自分としてもびっくりしました。その時から役に対する向きあい方が変わりました。あの稽古で感じた感覚をもう一度味わいたい、役者として舞台上に立ちたいという思いが強まり、市民劇のチラシを偶然見た私は、すぐに参加を決めました。

今回は戦争の話ということで、いろいろ考えさせられました。私は子どもの役で、主に戦中戦後を生きた子どもたちについて調べました。死体を間近に見てどう思うのか、大人の事情で起こる戦争をどう思っていたのか、知らない土地への移住……。実際に体験したことのないことなので、役に近づくのはとても難しかったです。

平和館へ行って映像を見ましたが、改めて戦争は二度と引き起こしてはいけないと思いました。見ている

だけで心が痛むのに、実際に戦争に遭ったら、つらいどころではないと思ったからです。この時代に生まれたことを幸せに思いました。

今回は、戦争という悲惨な目に遭われたにもかかわらず、復興しようと頑張る人たちを描いた劇でした。それは、今の日本でもいえることです。被災された方に勇気を与えるのと同時に、被災に遭わなかった人たちにも、何かアクションを起こそうという気持ちになっていただきたいです。

ここで、この劇を見てくれた友人の感想を少し載せます。「沖縄の伝統が川崎に伝わったことを初めて知った。」「人についていろいろ考えさせられた。」「リアリティがあった。」などがありました。伝えたかったことが伝えられたと思いました。

この劇を見ていない方でも、戦後という人々が力を合わせて頑張っていた時代があったことを心にとどめておいてほしいです。

実際に市民劇に参加させてもらっての感想は、学ぶことが非常に多かったということです。特に演出の言葉は自分のためにもなるものがたくさんありました。人間の心理、役者の心理、戯曲とは……。高等学校で指導してくださる先生がいなかったため、杉本さんの言葉は自分の役者人生に役立てていきたいと思いました。

今回は私よりも年上の方たちのみということで、甘えてばかりでした。部活だと、一人ひとりが自覚を持って行動することが必要とされていましたが、今回はいろんな意味で良い経験をさせていただきました。甘えられたのは、みなさんがやさしくて、面白くて、親切な方々ばかりだったからだと思います。このような方々とともに劇を作ってきたおかげで、毎稽古楽しく、飽きることなく取り組むことができました。この場を借りてみなさんにお礼を言わせていただきます。本当にありがとうございました！



「海ぶどう」の店で……

(写真撮影：小池汪 © 以下同)

大いなる家族に出演して

『あなたの心根が観たいのです』

森平 理子

「あなたの心根が観たいのです」このセリフは、大いなる家族の中で沖縄の代表的な俳優・渡嘉敷先生が、弟子になりたいと申し出た明子に語ったセリフです。

私は「心根」という言葉を、今回初めて聞きました。美しく、かつ力強い言葉ではありませんか。久しぶりに辞書を開いてみましたら

心の底にあるもの、心底（しんてい）、心情、本性、とありました。

私は、演劇に関しては全くの素人でしたが、今年の夏、市民劇キャスト募集のチラシを偶然手にしました。和光高校時代の2年間、演劇の授業を選択し、その頃充実していた記憶を思い出して応募したことが、運命の分かれ道でした。予想もしなかった道に一步踏み出してしまったのです。

最初に台本を開いた時、「心根」という文字が私の心に飛び込んできました。こんなに美しい日本語があったのだと。そして、キャストが決まり渡嘉敷先生の口から「あなたの心根が観たいのです」というセリフを耳にした瞬間、今までとは違った深い感動を覚えました。言葉に命が宿った瞬間でした。

半年に及ぶ稽古の中で感じたことは、1人1人の役者さん、スタッフのかたがたの中に「心根」が息づいていたことです。演じることの本質、セリフの一言一言、立ち振る舞いへのこだわり。そして、舞台作りへの情熱を感じました。そして、素人で全く形にならない



川崎駅近くの路地裏。焼け跡のバラック仕立ての居酒屋



旅や浜宿り 草の葉の杖 寝ても忘れぬ……

い私に対しても細かな助言、抜き稽古をして下さいました。

私の役は、沖縄の伝統芸能を川崎の地に残そうと、明子と2人で奮闘する新田真由美という役でしたが、何とも頼りない自分に何度も挫けそうになりました。

しかし、自分の中に芽生え始めた「心根」に耳を傾けながら、最後までやり遂げることができました。



今回の「大いなる家族」から学んだことは、1人1人の胸の中に「生きたい」という欲求があること。その欲求が隣の人に伝わり、「共に生きる」という繋がり広がっていくことです。「生きる」という根底には異なった「心根」が宿り、その「心根」を理解し尊重することが真の平和・共存へと導かれていくのだと。

最後に、この市民劇のよりどころとなった京浜協同劇団の稽古場は皆を受け入れてくれた大切な場所だと思います。稽古の終了がどんなに遅くなくても、必ずほうきを片手に掃除をなさっていた劇団員のかたから、目には見えないけれど、本当に信ずべきことを教えていただいたような気がします。市民劇に参加して本当に良かったです。ありがとうございました。心からの感謝をこめて。

「大いなる家族～戦後川崎ものがたり～」に参加して 今後にきっといろいろ役立つに違いない

中川 和恵

遠いなあ、いつになったら着くんだろう、この道でいいのだろうか……だんだん不安になる気持ちと闘いながら初めて京浜協同劇団のホールに友人のピアノの発表会を聴きに伺ったのが、もう4、5年前でしょうか。まさか今回、半年近く通うことになるとは思いません……。

昨年、私の琉球舞踊の師匠が市民劇の実行委員になり、中川さん、どう？と聞かれた時、「20代の役?! いやいや、若くて踊りの上手な方がいらっしゃるから。」と、一度はお断りしたのですが、実際にはなか



なか決まらなかったようで、再度声をかけていただき、思い切って面接を受け、参加させていただいたのでした。ところが、始まってみると、記者発表・シンポジウム出演・取材等稽古以外に次々と重い役目がのしかかってきて、これは大変な事になったぞと気を引き締めなおす日々が続きました。

年齢はいつていますが、40歳過ぎてからの舞台経



では、撮りますよ



験でするので、訓練も勉強も足りていないことに恐怖を感じながらの参加でしたが、杉本さんのワークショップのような演出は、毎回とても勉強になりました。

また、出演者としてだけではなく、スタッフとしても支えてくださった劇団の方々の存在がどれほど心の支えになったことか。本当は自信がなく、どうしたものかと悩んでばかりの、でも明子としては凛としていなければ葛藤の毎日を、声かけや、笑顔や、おいしいものでどれだけ助けていただいたかわかりません。

これだけ大勢の、いろんなどころから、いろんな人が参加する舞台にかかわったのは初めてでした。そして、想像もつかなかったような数々の問題をクリアしながら、何とかあそこまで漕ぎつけたことに驚嘆しました。その中に私もいたということにも。今後の活動にきっといろいろ役立つに違いない、変えるべきところはどんどん変え、でも自分の考えも自信もしっかり持って、そして今回こんな経験をさせてもらえた沖縄の芸能にも、真摯に取り組んでいこう……などと、駅からの片道15分がなくなり、ちょっと寂しさも感じながらつらつらと考えているこの数日です。



カーテンコール

ひとりひとりの個性を魅力的に輝かせることのできる集団

安達 元彦

ぼくは、人見知りのせいもあるのか、個人にしる集団にしる、打ち解けた関係をつくるのに時間がかかります。もともと、人とはベツタリ仲良しより、ちょっと距離を置いたややヨソヨソし目の関係の方が好きだということもあります。そんなわけで、京浜協同劇団の人たちの顔と名前が一致して、親しく口をきけるようになるには何年かかかっています。そうになっていくなかで、不思議に感じていたことがあります。

一対一の差しで話をしていると、誰もが劇団の悪口を平気で言う。劇団員個人の悪口も平気で言う。「エッ、そんなァ！ ぼくみたいな余所者にそんなこと言っているの？」でした。しかも、それぞれがみなちがう自分の言葉で言いたい放題。ぼくのそれまでの常識では、集団や組織にいる人は、部外者に対しては自分とこの弱点（不一致点など）はあまり言わない。批判に対しては反論または弁護をする。そして、みんな同じような言葉で同じような内容のことを言う。ぼくの勝手な思い込み（偏見）もあるかもしれませんが、一応経験的な実感でもありました。ある集団の場合、リーダーがその時点で強調した言葉を、キャッチコピーよろしく誰もが鸚鵡返しに口にするという場面もありました。

そうした中での京浜協同劇団と劇団員個々の様子にぼくは興味をそそられ、劇団や個々人をしみじみ「オモシロいなあ」と思ったのでした。しかし不思議でした。

1990年『麦の穂のように』（原作：中沢啓治「はだしのゲン」／脚本：山本忠利／演出：中沢研郎）の打



「麦の穂のように」の舞台（写真：長坂クニヒロ◎）

ち上げ会のことです。この芝居は、その内容から主要な役は子どもたち（小・中・高校生）で、劇団員をはじめ大人たちはサポート役でした。出演者だけでも百数十人、劇団員に数倍する外部協力者を抱え込み、苦労も多かったけれど、前代未聞の観客動員数に象徴されるように公演は大成功。その打ち上げ会にもぎやかなものでした。その時、子どもたちがヤンヤの喝采をあびて「ヨカチン踊り」（説明はしません。想像してください）。ぼくも前に呼び出され踊らされました。見ていた藤井康雄さんがそっとつぶやいていました——「あの子らには、なんでもやっていい場所なんだ、ここは」

「これが京浜協同劇団かあ！」とぼくは思っていました。成員が上部（指導部）の指示や方針によって動かされるのではなくて、ひとりひとりが言いたいことを言い、やりたいことをやり、思うさまのびのびと生きることのできる自分たちの居場所としての集団。

現在の京浜協同劇団の内部のことをぼくは知りません。でも、どこだって全員が百パーセント満足できるような理想的な集団なんてありっこない。たくさんの軋轢や矛盾をかかえながらなんとか自分たちにとって一番大切なものをブレずに貫いて行こうと四苦八苦するしかないのでしょう。家族という小さな集団から、国家という大きな組織まで……。集団のために個人があるのではなくて、個人のために集団はある。国家のために国民があるのではなくて、国民のために国家はある。

ひとりひとりの個性を魅力的に輝かせることのできる集団としての京浜協同劇団は、ぼくの心の中では「不滅だあ!!」



1988年（写真：長坂クニヒロ◎）

8月4日(日)に劇団で、憲法と反原発のイベントを開催します

『今こそ 腹の底から 憲法で行こう』

京浜協同劇団・京浜協同劇団と共に歩む文化の仲間共催

劇団の1階に憲法と反原発の写真や展示を行い、バザー・飲み物・お菓子コーナーなどを設置し、話し合いの場を設けます。

2階では、第1部として篠原久美子さん作の『空の村号』を上演します。空の村号は福島県飯舘村がモデルですがこの作品はフィクションです。小学校5年生の空(そら)ちゃんと小学校4年生の海(うみ)ちゃんの兄妹を中心に東日本大震災前後の人々の生き方を描いた作品です。

作者の篠原久美さんは「うんと明るい話を書きたいと思った。世界に悲しいことはいっぱいあるが、子どもに絶望をみせちゃだめ。絶望していない大人の姿を描いて、世の中捨てたものじゃないと思ってもらいたい」と言っています。明るく、しかし鋭く原発を告発した作品です。

音楽は安達元彦さんをお願いしました。

第2部として、フリージャーナリストの柴野徹夫さんのお話と参加者の「なんでもしゃべり場」コーナー(空の村号の感想・原発・憲法・等々)を行います。

イベントのスローガン『今こそ 腹の底から 憲法で行こう』は柴野さんが使われている言葉を拝借したのですが、元々は元京都府知事の蜷川虎三さんが言わ

れた言葉です。

文化の仲間の会員の皆さんにこのイベントへの参加のお誘いをいたします。

興味をお持ちの方は、客としての参加だけでなく、出演者としてあるいはイベントの実行委員・協力者として参加いただければ大歓迎です。

イベントに関わっても良いという方は、文化の仲間世話人または劇団に連絡をください。

当日の内容と予定時間は以下のとおりです。詳細は今後チラシその他でお知らせします。

8月4日(日) 参加費 1,000円

午後1:00 入場(1階のみ) 飲み物サービス・展示バザー関連本販売等

1:30 2階開場

2:00 『空の村号』開演(約1時間15分)

3:15 休憩(1階で飲み物サービス) 展示・関連本販売等

3:40 第2部「なんでもしゃべり場」コーナー

5:00 終了

5:10 打上げ・交流会(会費は別途1,500円を予定しています)

追悼・佐藤張二

また一緒に

舞台美術家 内山 勉

たしか「70年演劇行動」だったと思う。

安保をなくし、沖縄の完全返還を実現するため、演劇の力で70年をたたかおうと、日本全国で起こした運動がありました。

この京浜の地でも、「労演」と「京浜協同劇団」をはじめ地元劇団が企画し、『明日ぼくらは』という芝居を1年がかりで作りました。

僕も観客組織の一員として、作品作りに参加させてもらいました。

未だ右も左も判らない(上手、下手の区別もつかない)そんな時でした。

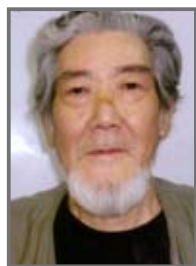
はじめて会ったのは、そのときだったと思う。張さんは既にバリバリ仕事をしていました。

何でも張さんの後ろにくっついて、動いていたように記憶しています。兄貴のような存在でした。

芝居に向かう姿勢と、芝居作りの楽しさを教えてくれました。労働の大切さといった方が良いかもしれません。

仕事の後、必ず一杯ひっかけるので、そこへもついていきました。お酒の味を覚えてくれたのも張さんでした。

近いうち、僕もそちらに行きます。また一緒に芝居を作りましょう。旨い酒を飲みましょう。そして、闘いの炎を燃やしましょう。



◎文化の仲間通信◎

◆映画 グレン・グールド 27歳の記憶

1959年・カナダナショナルフィルムボード製作・モノラル・B&H・58分

日程 2013年6月15日(土)～21日(金) 17:40

6月22日(土)～28日(金) 12:20

6月29日(土)～7月5日(金) 17:40

会場 川崎市アートセンター(小田急線新百合ヶ丘駅徒歩3分)

監督・製作 ロマン・クロイター、ウルフ・ケニッグ
／撮影 ウルフ・ケニッグ／録音 マイケル・ペライト ほか

入場料 一般 1,300円 大学・専門学校生 1,100円

シニア(60歳以上)・障害者 1,000円

自由席、整理番号順入場、各回入替制

20世紀もっとも孤独でもっとも愛されたピアニスト——グレン・グールド。天才の若き輝きを映した唯一のフィルムが、いま、デジタルで上映される。

問合せ 川崎市アートセンター 044-955-0107

◆渡されたバトン さよなら原発

日程・会場 6月18日(火) 10:30/14:30/18:30

エポック中原 ほか

監督 池田博穂／脚本 ジェームス三木／出演 赤塚真人・高林由紀子・渡辺梓・中原果南 ほか

原発の是非をめぐる四半世紀にわたる巻町民のたたかい、波乱に満ちたドラマの映画化。この映画は、原発に反対、賛成の立場に立ったものではなく、そもそも、地域住民と原発は共存できるのかを考えさせてくれる映画です。

前売券 1000円 当日券 1500円

問合せ 実行委員会

宮澤 090-2177-4732

加藤 090-5030-0542

◆スイス・レミ太鼓とつくる和太鼓コンサート

「心つないで」

日程・会場 8月3日(土)15:00 スクラム21ホール

8年前、スイスから1人の青年が和太鼓をやりたいと川崎にやってきた。レミ・クレメンテ君。今では、スイスで唯一の和太鼓チームとして大活躍の「レミ太鼓」を率いる指導者です。8年の時を越え、震災の傷癒えぬ日本に10人以上の仲間とやってきます。日本とスイスの太鼓仲間が心つないで打ち鳴らす太鼓の音をお聞きください。

入場料 無料

主催 スイス・レミ太鼓とつくる和太鼓コンサート実行委員会

問合せ 玉田 080-2043-8175

◆木山事務所公演 Musical Barefoot GEN

はだしのゲン

日程・会場 8月23日(金)～25日(日) 俳優座劇場

8月30日(金)～31日(土) 川崎市アートセンター

アルテリオ小劇場

原作 中沢啓治／脚本・作詞・演出 木島恭／作曲

林はじめ／音楽 高橋慶吉／出演 小野文子・大宜見輝彦・橋本千佳子・広瀬彩 ほか

入場料 一般 4,800円／学生割引 3,000円 全席指定
過去を見つめ未来を望む作品です。私たちがかつて失ったものは何か、現在に続く悲しみとは何か、そして明日の希望とは何か? 観客の皆さんとともに考えます。

チケット扱い 木山事務所・川崎市アートセンター・チケットぴあ

問合せ 木山事務所 03-5958-0855

◆川崎市民劇場 第315回例会

劇団青年座公演 ブンナよ、木からおりてこい

日程・会場 8月31日(土) 幸市民館

9月2日(月)・3日(火) エポック中原

原作 水上勉／補綴 小松幹生／演出 磯村純／出演 逢笠恵祐・佐藤祐四・綱島郷太郎・五十嵐明 ほか
生命の愛しさ、人生の残酷さなどを、ブンナという蛙を通して描いた時代の息吹あふれる舞台。

申込・問合せ 溝の口事務所 044-455-7950

川崎事務所 044-244-7481

◆川崎市民劇場第316回例会

劇団NLT公演 OH! マイママ

日程・会場 10月5日(土) 18:30 幸市民館

10月7日(月) 18:30・8日(火) 13:30 エポック中原

作 ブリケール&ラゼイグ／訳 佐藤康／演出 釜紹人／出演 川端楨二・木村有里・加納健次・弓澤公望 ほか

七転八倒の大騒動! 笑えるのに切なくなること請け合い。劇団NLTの真骨頂。

●会報No.63の訂正

前号5ページで、お楽しみ会の開催日を1月15日とお伝えしましたが、1月14日の誤りでした。おわびして訂正いたします。

■文化の仲間ギャラリー■

小野寺 晃⑩

